

4. 環境マスタープランの目標への達成状況

「環境マスタープラン」で掲げている目標に対する達成状況を報告します。

(1) 地域で取り組む地球温暖化の防止 ～低炭素社会を目指すまちづくり～

【目標達成状況】

達成目標	基準年度	2018年度	2019年度	目標値	目標達成状況 ■■■■■■■■■■→達成
市民一人あたりの二酸化炭素排出量の10%削減を目指す	3.80 (t-CO ₂ /人)	3.82 (t-CO ₂ /人)	集計中	3.42 (t-CO ₂ /人)	
再生可能エネルギーの市内エネルギー消費量に対する割合0.3%を目指す	0.05%	-	-	0.3%	
都内における再生可能エネルギーによる電力利用割合	-	15.3%	集計中	30% (2030年度)	
徒歩、または自転車・電車・バスを利用する市民の割合47.1%を目指す	37.1%	26.4%	32.2%	47.1%	

2017年度までは、東日本大震災以降に減少した電力、都市ガス等の使用量は、近年横ばい傾向にあり、二酸化炭素排出量の削減は進んでいません。2019年度の数値は、町田市環境白書2021に掲載予定です。

市内のエネルギー消費量に対する再生可能エネルギーの割合は、2016年度まで実施していた設置補助事業による導入設備を対象としていたため、事業が完了した2017年度以降は、都内の状況（東京都環境局公表）を参考として記載します。

マイカーをできるだけ控える市民の割合は毎年減少傾向にありましたが、2019年度は増加しました。

(2) 自然環境と歴史的文化的環境の保全 ～水とみどりと生き物を守り育むまちづくり～

【目標達成状況】

達成目標	基準年度	2018年度	2019年度	目標値	目標達成状況 ■■■■■■■■■■→達成
市域面積に占める安定的に確保された緑地の割合30%を目指す	28.9%	28.7%	28.7%	30.0%	
市内での水辺とのふれあいに満足している市民の割合49.8%を目指す	39.8%	46.6%	52.0%	49.8%	
生きものに関心のある市民の割合40%を目指す	31.3%	37.5%	33.7%	40.0%	

市域面積に占める緑地の割合は、2018年度から変動していません。

水辺とのふれあいについて、満足している市民の割合が大きく増加し、目標値を達成しました。

生きものに関心のある市民の割合は、2017年度より上昇傾向でしたが、2019年度は減少しています。

(3) 持続可能な循環型社会の構築 ~ごみを減らし資源を有効活用するまちづくり~

【目標達成状況】

達成目標	基準年度	2018年度	2019年度	目標値	目標達成状況 ■■■■■■■■■■→達成
ごみとして処理する量(資源ごみを除く)を6万tにする	9.92万t	9.18万t	9.43万t	6.00万t	
一人一日あたりの総ごみ量(資源ごみを含む)782g/人・日を目指す	842(g/人・日)	759(g/人・日)	769(g/人・日)	782(g/人・日)	
資源化率54%を目指す	26.7%	25.5%	24.8%	54.0%	

2019年度のごみとして処理する量は94,309tと基準年度に比べ5.2%減少していますが、2020年度の目標である40%削減までは、あと約34,000tの削減が必要となっており2020年度までの目標達成は困難な状況です。

一人一日あたりのごみ量は、2019年度は769gと増加しましたが、目標は達成しています。

資源化率は2018年度と比較すると低下しており、基準年度からも低下しています。2020年度までの目標達成は困難な状況です。

コラム レジ袋有料化

プラスチックが我々の生活に利便性と恩恵をもたらしてきた一方で、資源の枯渇や廃棄物・海洋ごみ問題といった課題が深刻さを増しています。こうした背景から、あらゆるプラスチック製買物袋(いわゆるレジ袋)を有料化することで、過剰なプラスチック製品の使用を抑制していくことを目的に「容器包装リサイクル法」の枠組みを基本とした関係省令の改正により、2020年7月1日から全国でレジ袋の有料化が開始されました(一定の基準を満たす繰り返し使用可能なレジ袋や、海洋生分解性プラスチックの配合率が100%のレジ袋、バイオマス素材の配合率が25%以上のレジ袋は有料化の対象外となります)。

こういった変化の中で、レジ袋に代わるものとしてエコバッグやマイバスケットが改めて注目を集めています。身近なスーパーやコンビニでもエコバッグが販売され、デザインについてもコンパクトにたたむことができる利便性の高い製品や、素材や色のバリエーション展開など消費者自身の価値観に合わせられる製品も見られるようになりました。町田市でもエコバッグの利用を促進するために、エコバッグを製作し環境啓発イベントで配布する予定です。

しかし、昨今の衛生意識の高まりから、エコバッグを繰り返し利用することによる衛生面での懸念が広がっています。今後ともエコバッグやマイバスケットを安心して使うために、洗える素材のエコバッグを複数枚用意し、入れ替えながら洗濯し清潔を保つことや、洗うことのできない保冷バッグやマイバスケットについては定期的に除菌シートなどで拭くなど衛生面での対策を考える必要があります。



町田市で新たに製作したエコバッグ

(4) 良好な生活環境の創造 ~安全で快適な暮らしを実現するまちづくり~

【目標達成状況】

達成目標	基準年度	2018年度	2019年度	目標値	目標達成状況
					■■■■■■■■■■→達成
市内の大気質(SO ₂ 、NO ₂ 、SPM)の環境基準達成を目指す	基準値達成	基準値達成	基準値達成	全項目 基準値達成	
市域の河川(鶴見川、境川、恩田川を対象)の水質(pH、BOD、SS、DO)の環境基準達成を目指す	恩田川の pH以外 基準値達成	pH以外 基準達成	pH以外 基準達成	全項目 基準値達成	
居住地の周辺環境に満足している市民の割合67.7%を目指す	62.7%	65.4%	72.4%	67.7%	

2019年度までは、大気に関する項目は、すべての対象項目(SO₂、NO₂、SPM)で基準を達成しています。
 河川の水質に関する項目は、水素イオン濃度(pH)以外は、環境基準を達成しています。pHは、3河川ともアルカリ側に超過しており、藻の光合成の影響と考えられます。
 居住地の周辺環境について、満足している市民の割合が大きく増加し、目標値を達成しました。

(5) 環境に配慮した生活スタイルの定着 ~学び・協働で進めるまちづくり~

【目標達成状況】

達成目標	基準年度	2018年度	2019年度	目標値	目標達成状況
					■■■■■■■■■■→達成
環境に配慮した行動を行っている市民の割合50.7%を目指す	40.7%	37.5%	38.9%	50.7%	
市内小中学校での環境教育や環境配慮行動の実施100%を目指す	100%	100%	100%	100%	
環境学習や環境に関するイベント等へ積極的に参加する市民の割合17.6%を目指す	10.6%	14.2%	13.0%	17.6%	

環境に配慮した行動を行っている市民の割合は、基準年度より減少しています。
 市内小中学校における環境学習は全校で継続的に実施され、定着しています。
 環境学習や環境に関するイベントへの参加率は減少傾向にあります。

注)「目標達成状況」の の数について
 0・10%
 20・30%
 40・50・60%
 70・80・90%
 100%



町田市役所の地球温暖化対策

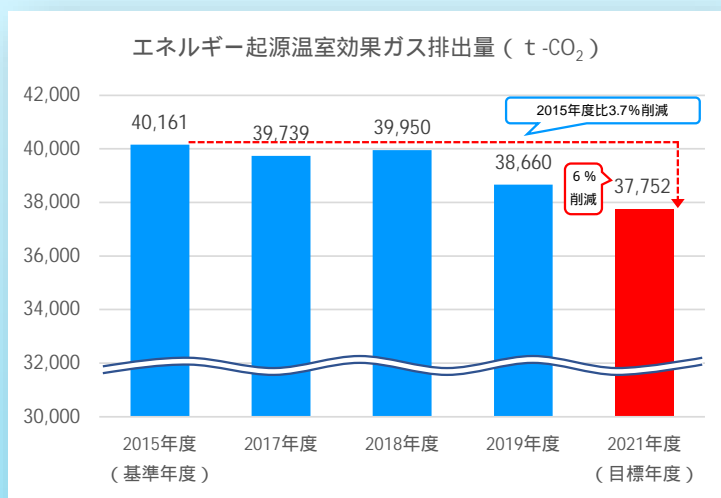


町田市では、市役所における 2017 年度から 2021 年度の 5 年間の地球温暖化対策実行計画として、「町田市第 4 次環境配慮行動計画（以下、第 4 次行動計画）」を策定し、温室効果ガス排出量削減のため、省エネ・省資源、廃棄物の減量等の取り組みを行っています。

温室効果ガス排出量

第 4 次行動計画では、主に職員の事務事業活動における電気・都市ガス・燃料等の使用から算出されるエネルギーを起源とする温室効果ガス排出量について、2021 年度までに 2015 年度比で 6%以上削減することを目標に掲げています。

2019 年度の温室効果ガス排出量は 38,660t-CO₂ で、2015 年度と比較して **3.7% 減少**しました。



具体的には、下記のような取り組みを行っています。

エコオフィス活動

省エネ・省資源につながる活動を各職場で実施しています。

< 活動例 >

- ・用紙の適正使用 (2in1 印刷や両面印刷)
- ・空調や施設設備の適正使用
- ・エコドライブの推進

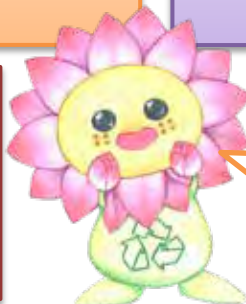
グリーン購入

環境に配慮した製品がより多く市場に出回るように、市役所では、文房具等消耗品を中心に、環境に配慮した「グリーン購入対象商品」を率先して購入しています。



環境配慮契約 (電気)

市役所では、電力契約を行う際、契約する電力会社の供給する電気が、環境に配慮したものか、一定の基準を設けて確認し、事業者を選定しています。



これからもいろんな取り組みを実践して、環境負荷低減に貢献するのん

町田市の取り組み情報詳細は、市のホームページでもご覧いただけます。ホームページの検索フォームで『環境マネジメント』と検索してみてください。

町田市環境マネジメントシステム

町田市では、町田市第4次環境配慮行動計画に基づく環境に関する取り組みを適切に進行管理するシステムとして、「町田市環境マネジメントシステム(以下、町田市EMS)」を運用しています。町田市EMSは、各部署の取り組み状況を内部環境監査や、外部評価で点検・評価し、市長総括による見直しを行う仕組みになっています。

STEP
1

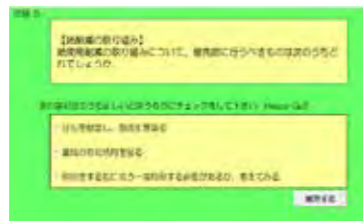
職員が学びます

[職員研修の開催]

1. 管理職研修
新任の管理職を対象とした研修です。
2. 庁舎管理責任者研修
施設所管部署の職員を対象とした研修です。
3. 環境推進員研修
市役所各課におけるエコオフィス活動の推進役として任命された「環境推進員」の研修です。
4. 新入職員研修
新たに入庁した職員向けの研修です。

[職場研修の実施]

職員研修後、部署ごとに内容を定めて職場研修を実施しています。
環境に関する問題に各自がパソコンで回答するeラーニングも実施しています。



STEP
2

職員が取り組みます

[エコオフィス活動の実施]



分別ステーションの設置



空調などの消し忘れ防止掲示



照り返しの強いエリアの植物による遮光

[グリーン購入の実施]

「町田市グリーン購入ガイドライン」に基づいた物品・サービスなどの調達を実施しています。

[電気的环境配慮契約]

市の施設で使用する電力について、可能な限り二酸化炭素排出係数の低い電力販売事業者と契約しています。

STEP
3

取り組んだ結果を確認します

[内部環境監査]

内部環境監査では、職員が監査員となり、活動状況、エネルギー使用量の監査を行います。
年1回定期監査を行い、改善すべき点があった場合はフォローアップ監査も実施しています。
毎年、出先機関や学校など20か所を対象に行っています。

[外部評価]

外部評価委員が市役所の環境への取り組みを評価します。外部評価委員は、市民・事業者・学識経験者で構成しています。
例年、外部評価委員の方々に3回の委員会と1回の現地確認を経て、前年度の取り組み結果を評価していただいています。



外部評価委員による現地確認の様子(2019年度)

[市長総括]

前年度の実績、内部環境監査、外部評価を踏まえ、市長が総括を行います。

STEP
4

確認した結果を話し合います

[町田市省エネルギー等対策会議]

STEP3の市長総括結果を受け、さらなる温室効果ガス削減の推進に必要な措置等を図る会議です。

▶ 結果を次年度の取り組みや研修の内容に活かします。

▶ Step 1～4を繰り返し行うことで、さらなる改善につなげます。

エコな市役所を目指して
がんばっているのん♪

